秋田市教育委員会
会　　議　　録

令和８年９月定例会

記録者

秋田市教育委員会令和８年９月定例会会議録

１　日　　時　　令和８年９月２４日（木曜日）
　　午後３時３０分～午後４時５０分

２　場　　所　　５－Ａ会議室

３　出席委員　　教育長
　　教育委員
　　教育委員
　　教育委員
　　教育委員

４　出席職員　　教育次長
　　教育次長
　　副理事兼総務課長
　　副理事
　　学事課長
　　学校教育課長
　　教職員室長
　　教育研究所長
　　学校適正配置推進室長
　　生涯学習室長
　　御所野学院高等学校事務長
　　御所野学院高等学校教諭
　　総務課長補佐
　　学事課長補佐
　　教育研究所副参事
　　学校適正配置推進室副参事
　　総務課主席主査
　　総務課主査
　　総務課主任
　　総務課主任

総務課主任
学事課主事

5　議　　題

【付議案件】

議案第13号　教育委員会事務の点検・評価に関する件

議案第14号　裁決（公文書不存在による不開示決定処分に係る審査請求）に関する件

【教育長等の報告】

(1) 第５次秋田市教育ビジョン（原案）に係るパブリックコメントの実施について

(2) 令和９年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について

(3) 令和８年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

(4) 学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

6　議　　事　午後３時３０分開会

【令和８年８月定例会会議録の承認】

令和８年８月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

教育長が今回会議録の署名委員として委員２名を指名した。

【非公開の議決】

教育長　　議案第14号は、個人情報が含まれる案件となる。

したがって、この案件については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１４条第７項ただし書の規定により、秘密会として取り扱うこととし、日程の最後に審議したいと思うがどうか。

※　以上の発議があり、全員賛成により議決された。

【付議案件】

議案第13号　教育委員会事務の点検・評価に関する件

教育長　　議案第13号「教育委員会事務の点検・評価に関する件」について、事務局から説明願う。

副理事兼総務課長　　（資料に基づき説明）

委員　　学識経験者からの意見を踏まえ、本市の教育のあり方や課題について、改めて、気を引き締めていく必要があると決意を新たにしたところである。

委員　　我々の取組に対して、学識経験者から高評価をいただいている点も多く、うれしく思う。今後も、気を引き締めて市民や子どもたちのために考えていければと思う。

委員　　学識経験者から非常に有益な意見をいただいたので、今後の展開につなげてほしい。

教育長　　学識経験者からの意見を今後どのように生かしていくのか。

学校教育課長　　課題の中には、本市の不登校児童生徒数が増加していることなどがあるが、様々な意見を取り入れながら、多様な選択肢があることを周知していきたい。

※　議案第13号については、全員賛成により、議決された。

【教育長等の報告】

(1) 第５次秋田市教育ビジョン（原案）に係るパブリックコメントの実施について

教育長　　報告(1)「第５次秋田市教育ビジョン（原案）に係るパブリックコメントの実施について」、事務局から説明願う。

副理事兼総務課長　　（資料に基づき説明）

委員　　パブリックコメントでは、どの程度の意見提出があるものなのか。

副理事兼総務課長　　前回は、市民１００人会の会員のうち、教育分野に関心のある２１人に依頼し、８人から１９件の提出があった。また、

意見提出箱には、３人から１９件の提出があり、合計で３８件の提出があった。

委員　　意見の提出方法は前回と同じか。

副理事兼総務課長　　前回と同じく、本庁や市民サービスセンターなどに意見箱を設置するとともに、市民１００人会を活用することとしている。

委員　　教育委員会としては、多くの方から意見をいただきたいと考えているのか。それとも、教育に関心がある方からのみ意見をいただきたいと考えているのか。

副理事兼総務課長　　本市の広聴制度の基本的な考え方として、幅広く意見をいただくため、ホームページなどを使い、対象を絞らずに多くの方から意見をいただくこととしている。加えて、市民１００人会制度があり、今年度は、教育分野に興味があると選択している方が２７人いる。この方々からは提出いただける可能性が高いと考えている。前回の３８件も多いとは言えないかも知れないが、今回も幅広く多くの方々から提出していただきたいと考えている。

委員　　パブリックコメントの実施について、市民の方々にはどのように周知するのか。

副理事兼総務課長　　秋田魁新報の秋田市広報板に掲載し、周知することにしている。

委員　　市民１００人会の中で、教育分野に興味があるとしている２７人の男女比や職業などは分かるのか。

副理事兼総務課長　　２７人の情報は、把握していない。市民１００人会の会員については、年齢・性別・地域などのバランスを考慮したうえで、無作為に選定されている。会員は、自身が興味のある行政部門を複数選択することができるようになっており、教育分野を選択している方から意見を募集する予定である。

委員　　公共性が高い選定方法になっているということか。

副理事兼総務課長　　広聴の仕組みとして、その点に配慮した制度設計であると

考えている。

教育長　　市民１００人会は、本市の広報広聴課が作っている制度であり、会員は無作為に選出しているものなので、教育委員会で人となりは分からない。

委員　　教育委員会以外が行ったパブリックコメントでは、どの程度の意見提出があるものなのか。

副理事兼総務課長　　他部局の実績は、把握していない。

委員　　過去の経緯や件数なども参考にして、周知に努めてほしい。

※　報告(1)については、以上のとおり終了した。

(2) 令和９年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について

教育長　　報告(2)「令和９年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について」、事務局から説明願う。

学事課長　　（資料に基づき説明）

※　報告(2)については、以上のとおり終了した。

(3) 令和８年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

教育長　　報告(3)「令和８年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について」、事務局から説明願う。

教育研究所長　　（資料に基づき説明）

委員　　小学校や中学校の平均正答率やＩＲＴスコアの結果の中に全国平均を下回っているものがあるが、その原因をどのように分析しているのか。

教育研究所長　　小学校の算数の図形問題に、立体の体積の求め方や意味を問う問題があった。１辺が８センチメートルの立方体の体積を求めることはできていても、１立方センチメートルの立方体を３６個使ってできた直方体の体積を求める問題ができて

いないことから、ブロック等を使い、１立方センチメートルの立方体がいくつ分かを実感させながら体積の意味について理解できるようにする必要があると考えている。

英語については、学校訪問等における子どもの学習の様子や県が毎年実施している学習状況調査の結果から、本市生徒の英語の能力が低下したとは捉えていない。本調査で全国平均を下回った要因として、タブレット端末を使用して回答する方法に慣れていなかったのではないかと推察している。今後は、学校訪問や教職員研修等を通じて本市の状況を先生方に伝えるとともに、英語科の授業におけるタブレット端末の効果的な活用について一層の周知を図っていく。

また、英文をキーボードで入力する活動を取り入れた授業実践例を作成し、各校に送付する予定である。

委員　　前年度までに受けた授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、週に１回以上使用したと回答した子どもの割合が全国平均を下回ったことを危惧している。これまでＩＣＴ機器を取り入れてから、注力してきたが、最近は、パワーダウンしているのではないかとも読み取れるが、今後、どのように対応していくのか。

教育研究所長　　ＩＣＴの活用については、令和４年度の調査から経年比較すると、中学生に大きな変化はなかった。小学生は令和４年度の６６パーセントから昨年度の９０パーセントまで右肩上がりだったが、今年度は８２パーセントだった。小学校での活用が下がった要因として、先生方がＩＣＴの活用を進めていく中で、デジタルと紙のそれぞれの良さを体感し、学習の場面や子どもの発達の実態に応じてデジタルと紙を使い分けていることによるものではないかと推察している。また、児童生徒のＩＣＴの活用スキルについては、肯定的な回答が全国平均を上回っていることから、各校において、適切に活用しているものと捉えている。今後も先生方のスキルを高める

研修の一層の充実を図っていきたい。

教育長　　１８パーセントの子どもたちは、週に１回も授業でタブレットを使っていないということになる。全てをデジタル一辺倒にする必要はなく、アナログの大切さも重視しながら、思考を深める場面や共同で学習できる場面で活用することを目的に導入していることを学校訪問等を通じて伝えてほしい。

さきほどの小学生の算数の図形問題で、１立方センチメートルの立方体を３６個使ってできた直方体の体積を求める問題について、どのような誤答が多かったのか。

教育研究所長　　問題に高さが４センチメートルと示されていたのだが、その情報に惑わされてしまい、１立方センチメートルの立方体が３６個分の体積ということにつながらなかったのではないかと推察している。

教育長　　今回の問題では、高さは必要のない情報であり、問題を読んで、必要な情報か不要な情報かを様々な数値の中から取捨選択する力も育てていかなければいけないと感じた。

委員　　ＩＣＴ機器のタイピング能力は１つのテーマだと思う。タイピング能力は、小学校のうちから導入し、素早く正確に打てるようにしなければならないと思う。検索はできても、素早くタイピングができないと時間のロスになってしまう。

また、ＩＲＴ、ＣＢＴへの対応とは言いつつも、英語は言語教科である。本市の国語が高い結果を保っているのは、漢字などのように、繰り返し書いて覚えるという点にあると思う。そのため、なんでもＩＣＴに切替えるのは危険性があると思う。単語やスペルを書くというところに立ち返り、基礎的な力を付けていかなければいけないのではないかと感じる。基礎的なスキルを身に付けるには、時間がかかり、非常に粘り強く頑張らなければならないが、様々なものが便利になり、簡単に手に入れられるような現状があるので、繰り返し積み重ねていくという体験が今の子どもたちには必要なのではな

いかと思う。

デジタルとアナログをうまく活用し、目的を持ち、子どもたちに必要な能力を身に付けさせていきたいと思う。

一方で、児童生徒質問調査で、子どもたちが人との関わりに対して好意的に思っていることや、地域との関わりの「地域に貢献したい」という点が高かったことは大変うれしく思う。本市では、特色ある学校経営の中で地域連携を大事にして地域の方々とのふれあいの中で地域から支えられ、ともに創生していくという姿が見えてきているのではないかと思うので、引き続き地域とともに創生される学校教育、地域であってほしいと思う。

教育研究所長　英語については、児童生徒質問調査で「自分の考えを英語で書く活動を行っているか」という質問に対しては、肯定的な回答をした子どもが全国平均を５ポイント上回っていた。しかし、「キーボードを使って英語を書く活動を行っているか」という質問については、全国平均を４ポイント下回っていた。紙に書く学習は行っているものの、キーボード入力の機会が少なかったことが、英語のＩＲＴスコアが全国より下回るという結果につながったのではないかと推察している。

教育長　ＣＢＴの場合、１問ごとに時間が区切られているのか。

教育研究所長　１問ごとの時間は、区切られていない。前回の「話すこと」のテストは、制限時間の経過により次の問題に移る仕組みであったが、今回は、自分でクリックし、次に進む形式だったため、時間に追われてはいない。しかし、動画視聴後に、話す内容を１分間考えてから制限時間内に回答する形式だったことから、そのような形式に慣れていない生徒は焦ってしまい、無回答率が高かったのではないかと推察している。今後は、制限時間を設けて話すなど、時間感覚を身に付ける必要があると考えている。

教育長　これまでの本市の子どもたちの特徴としては、無回答率が

全国よりも非常に低く、一生懸命答えているという状況だった。今回の英語については、無回答率が高かったため、改善していく余地があるように感じた。

委員　　小学校６年生は、地域に貢献したい、学習を頑張っているという質問において、良い結果が得られ、良かったと思う。その一方で、算数の勉強が得意かや、幸せな気持ちになるかという質問は、全国平均と同程度または下回っている。これまでの小学校６年生の結果と比較すると、今年度の小学校６年生はどうか。例えば、これまでの小学校６年生も全国平均と差がなく、あまり幸せだと感じていないが、中学生になると高くなってくるという傾向なのか。

教育研究所長　　幸せな気持ちになるかについては、昨年度は小学生が全国平均を１ポイント上回っており、中学生が１ポイント下回っていた。今年度は逆になったが、差は１ポイントであるため、大きな差があるとは捉えていない。

委員　　子どもたちの傾向は、毎年ばらばらなのか。また、子どもたちの傾向については、どのように捉えているのか。

教育研究所長　　その年によって違いはあるが、大きな差はないと捉えている。ＳＮＳや動画の視聴に関しては、２年前に同じ調査をしているが、１時間以上と答えている子どもが２年前と比べて、小学生が２５ポイント増、中学生が１６ポイント増になっている。全国的にも視聴する時間が長くなっている傾向があることから、研修等を通じてＳＮＳ、動画の視聴が長いことによる身体的な健康リスクについても周知していきたい。

委員　　数値としては、大きな差がないから変わらないということだが、今年度の小学校６年生は自信がないのかという印象を受けた。勉強を頑張っている時間が全国平均より高い一方で、算数に対する自信のなさなのか、得意だと回答している割合が全国平均を下回っている。頑張っている割に自信がないのかという印象を持ったが、それは今年度の小学校６年生だけ

なのか。それとも、子どもたちの周囲の環境が変わってきている中で変化してきているのか。

教育研究所長　　今年度の中学校３年生は、どのような質問に対しても肯定的な回答が多かったことから、本市の児童生徒が大きく変化したとは捉えていない。

委員　　中学校３年生が肯定的なポイントが高かったということは、今後の指導のヒントになると思う。何が良かったのかなどは、分析しているのか。

教育研究所長　　今年度の中学校３年生の結果が良かった明確な要因は特定できないが、昨年度、中学校の先生方が教科の専門研修に参加しており、研修で学んだことや学校訪問等で学んだことを授業改善に生かしていることが生徒の意欲の高まりにつながったのではないかと考えている。

委員　　小学生と中学生を持つ親として、小学生が、平日１時間以上スマホや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でＳＮＳや動画視聴をしているという点は非常に当てはまると感じる。対して、中学生は、部活や塾などで帰ってくる時間が遅いことから、ＩＣＴ機器に触れる時間が少なくなり、減っていくのではないかとも思う。小学生のときに全国平均を上回っているのはあまり良いことではないが、学校の授業時間以外に平日３０分以上勉強しているという質問が、小学生と中学生のいずれも全国平均を１０ポイント上回っているという点は、本市の小学校で行っている家庭学習ノートによる取組が結果につながっているのではないかと思う。学習習慣を身に付けた中学生も家庭で勉強を３０分以上していることから、１０ポイント上回っているのではないかと思うので、今後もこの方向性で進めてほしい。

※　報告(3)については、以上のとおり終了した。

(4) 学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

教育長　　報告(4)「学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について」、事務局から説明願う。

学校適正配置推進室長　　（資料に基づき説明）

※　報告(4)については、以上のとおり終了した。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐　　今後の日程についてお知らせする。１０月定例会については、１０月２２日木曜日午後３時３０分から開催する予定である。

教育長　　１０月定例会は、１０月２２日木曜日午後３時３０分から開催予定とのことである。委員の皆様、よろしくお願いする。

【付議案件】

議案第14号　裁決（公文書不存在による不開示決定処分に係る審査請求）に関する件

議案第14号については、秘密会のため、秋田市教育委員会会議規則第２１条の規定に基づき、会議録に記載しない。

午後４時５０分閉会